

2

財)杉並区障害者雇用支援事業団

平成18年度杉並区財団等経営評価表

| | | | | | | | | | | |
|----------------|---|---|-------------------------|------------|---|------------------|---------|--|--|--|
| 団体概要 | 名称 | 財団法人 杉並区障害者雇用支援事業団 | | 代表者 | 小林義明 | | 所管部課 | 保健福祉部 障害者施策課 | | |
| | 基本財産 | 500,000千円 | | 設立年月日 | 平成10年10月1日 | | 電話 | 5382 - 2081 | | |
| | 事業目的 | 就労が困難な障害者の雇用の促進と職業生活の自立を図るため、職業準備訓練から就職・職場定着に至るまで一貫した就労支援・相談援助を障害者、事業主等を行うことにより、障害者の自立と社会参加を進め、ノーマライゼーションの理念の実現に寄与する。 | | 顧客(サービス対象) | 就労を希望する障害のある人とその関係者 区内各作業所 区内外の障害のある人を雇用、または雇用しようとする事業者 | | 事業内容 | 就労機会の開拓、提供 職業準備訓練の実施 職業リハビリテーションに係る情報の提供、相談、援助 事業主に対する雇用管理に関する事項の助言、援助 雇用支援者に係る情報の収集・提供 雇用支援者に対する研修の実施 その他事業団の目的達成に必要な事業 | | |
| 経営分析 (定性評価) | 団体による自己評価結果 | | | | | 定性評価レーダーチャート | | | | |
| | | 15年度評価 | 16年度評価 | 17年度 | | | | | | |
| | | | | 評価 | 得点 | | | | | |
| | 計画性 | A | A | A | 88 | | | | | |
| | 目的適合性 | B | B | A | 88 | | | | | |
| | 健全性 | B | B | A | 80 | | | | | |
| | 効率性 | B | B | B | 70 | | | | | |
| 経済性 | B | A | A | 80 | | | | | | |
| 総合 | B | A | A | 406 | | | | | | |
| 経営分析 (定量評価) | 財務 | 主要指標 | | 単位 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 特記事項 | | |
| | | 総収入 | | 千円 | 193,876 | 216,472 | 189,872 | | | |
| | | 総支出 | | 千円 | 192,606 | 214,380 | 188,693 | | | |
| | | 資産 | | 千円 | 551,275 | 547,099 | 538,990 | | | |
| | | 補助金収入依存度 | | % | 53.3 | 55.1 | 64.7 | | | |
| | | 受益者負担 | | 千円 | 114 | 119 | 0 | | | |
| | | 事業費比率 | | % | 92.7 | 87.1 | 86.7 | | | |
| | | 管理費比率 | | % | 7.3 | 12.9 | 13.3 | | | |
| | | 職員一人当たり事業収入 | | 千円 | 3,248 | 3,629 | 2,411 | | | |
| | | 経常収支 | | 千円 | 1,270 | 2,092 | 1,179 | | | |
| | 経常支出人件費比率 | | % | 47.2 | 48.5 | 59.7 | | | | |
| | 損益分岐点 | | 千円 | 191,979 | 213,459 | 188,368 | | | | |
| | 組織 | 総職員数 | | 人 | 36 | 39 | 39 | | | |
| 常勤役員比率 | | % | 4.6 | 4.6 | 4.0 | | | | | |
| 事業分析 | 指標名 | | 算式 | 単位 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | | | |
| | 活動指標 | 職場開拓企業訪問数 | 職場開拓のため企業訪問した件数 | 件 | 27 | 39 | 42 | | | |
| | | 職場定着等企業訪問数 | 定着支援等、指導のため企業訪問した件数 | 件 | 502 | 663 | 696 | | | |
| | | 相談件数 | 就職を希望する者及び就労中の者に対する相談件数 | 件 | 102 | 95 | 110 | | | |
| | 成果指標 | 就職者数 | 事業団を利用して就職した人数 | 人 | 10 | 19 | 17 | | | |
| 定着率 | | {1-1年未満で離職した数(累計) / 就職者数(類型)} * 100 | % | 86.1 | 89.1 | 90.3 | | | | |
| 経営実績 | 障害者の就労を促進するため、就労を希望する障害者に対し雇用支援センター及びそれ以外の事業団自主事業部門で喫茶、軽作業等の職業準備訓練と就労機会の提供を行うとともに、ハローワーク等と連携して障害者を雇用する企業を開拓し、障害者の就職、職場への定着支援を進めた。また、17年度も区と協働して区役所・区立図書館での体験実習を実施、作業所職員を対象としたジョブコーチ養成講座や雇用支援ネットワーク会議等を開催したほか、作業所職員を対象に企業見学会を実施した。18年度以降は、17年度に策定した事業改革推進プランに基づき、訓練の場や訓練期間の見直し、新たなコースの設定、登録制度の導入など、ニーズにあったサービスを提供する。 | | | | | | | | | |

| 〔財団等団体経営評価(一次評価)〕 | | |
|--|---|--|
| 経営分析・定性評価 | 経営分析・定量評価 | 事業分析 |
| 16年度に策定した経営計画に基づき、17年度から各事業の位置づけを企業就労を目指す障害者の雇用支援のための事業として明確化した。さらに17年度には、障害者の就労ニーズの変化や自立支援法制定等の動きを踏まえ、「事業改革推進プラン」を策定して雇用支援の強化に取り組んでいる。 | 訓練作業種目の見直しにより、印刷・自転車リサイクルを16年度末で廃止したため、事業収入が減少している。このことや雇用支援業務の強化に伴い、補助金への依存度や人件費比率が上昇しており、新たな歳入確保や事業運営の効率化が課題となっている。一方、「障害者雇用支援」のような公益法人活動を適正に評価する定量指標の設定が必要である。 | 雇用支援機能の強化により就職者数は増加しているが、新たな訓練生の確保が難しくなっている。18年度以降、登録制による雇用支援対象者の拡大や訓練の場の見直し等により、効果的・効率的な事業を推進することで雇用支援の一層の強化に取り組んでいく。 |
| 〔財団等団体経営評価〕 事業団では、17年度に従来有していた福祉的あるいは、中間的就労の場としての機能を見直し、企業就労を目指す障害者のための雇用支援の機能に特化した。このことにより、実施事業は職業準備訓練、職場開拓、就職・定着支援、ジョブコーチ等人材育成等、いずれも「障害者の一般就労の促進」という目的に合致した内容で展開されており、事業団の設立目的に適合した経営を行っている。18年度以降は、17年度に策定した「事業改革推進プラン」に基づき、訓練の場である喫茶「てんとう虫」経営の他事業者への移譲による「店舗経営と訓練指導の分離」を進め、登録制の導入による雇用支援対象者の拡大や養護学校・作業所への支援強化など、新たに必要となる雇用支援業務に職員が集中できる体制を創出していく。 | | |
| 〔所管部課経営評価(二次評価)〕 | | |
| 経営分析・定性評価 | 経営分析・定量評価 | |
| 平成16年度に策定した「障害者雇用支援杉並アクションプラン」に基づき、企業就労への強化を図っており、着実に実績を上げている。 平成17年度は、区の保健福祉計画の改定や障害者自立支援法の動向との整合性を図った「事業改革推進プラン」を策定するなど、障害者の雇用支援の強化に向けて計画的な取り組みがなされている。事業実施に関し、顧客のニーズ把握や企業アンケートの実施など、事業目標の達成に向けた努力が見られる。 経営面では、財産管理、人事管理共に、健全な経営である。 | 事業の特性から、人的支援が益々重要となることは必至であるため、高い人件費率はやむを得ない状況といえる。 | |
| 事業分析・現状の分析・評価 | 事業分析・目標設定の考え方 | 事業分析・事業の推移 |
| 事業団の機能を企業就労を目指す障害者の雇用支援に1本化したことから、すべての活動指標が増に転じた。今後も就職者の増に伴い相談件数の増が見込まれる。 就職者数は若干前年を下回ったものの、着実に就職者は増えている。定着率も高く、定着支援アドバイザーによる支援の効果が現れている。 | 企業就労を目指した指標設定になっており、事業目標の達成状況がわかる指標となっている。 | 事業の見直しから、一部事業を縮小したことにより、事業収入が減ったが、事業目的にあったものとみてよい。 今後の就職者の増や、精神障害者や高次脳機能障害の方への支援の方向性から、ジョブコーチや定着支援アドバイザーの増員が見込まれる。 |
| 〔所管部課経営評価〕 ・平成16年に策定された「障害者雇用支援杉並アクションプラン」に基づき、雇用支援事業が強化されたことにより、着実に就職者が増えている。また、定着支援指導の強化により高い定着率という成果を上げており評価したい。 ・平成17年度には区の保健福祉計画の改定や障害者自立支援法の動向を踏まえ「事業改革推進プラン」を策定し、雇用支援者の拡大等、障害者の多量な就労ニーズに対応できる事業展開に向けた体制づくりに取り組む方針を示している。杉並区では、障害者自立支援法の施行に伴い、障害者の就労支援を重点施策と位置付け、障害者の地域での自立した生活が実現すよう「もっと働ける地域社会づくり」に向けて雇用支援の強化に取り組んでいる。今後は区との協働体制を一層強化するとともに、事業団の独自性を発揮し、杉並区の障害者雇用支援の中心としての事業展開を期待したい。 ・今後は精神障害者や高次脳機能障害や発達障害の方などへの支援を視野に入れたネットワークの強化が必要である。 | | |
| 〔総合経営評価(三次評価)〕 | | |
| ・平成17年度は、障害者自立支援法の制定・施行や区の保健福祉計画が改定されるなど、障害者雇用を取り巻く状況が大きく変化する中で、障害者雇用支援事業団が「事業改革推進プラン」を策定し、時代の変化に対応する事業実施方針を示したことは評価できる。 ・障害者が就職した職場での定着率は90%を超える実績をあげている一方で、障害者の就職者数は若干減少している。障害者自立支援法の制定で、福祉的就労の主体である作業所などの転換期となったこともあり就職者数に影響が出たものと思われるが、平成18年度は事業団の人的体制が拡充されているので、今後の就職者数などの事業成果に結びつくよう期待する。 ・事業団の設立目的や企業就労支援を重点化した事業団の事業実施方針から、財務運営は、補助金収入と人件費支出が主体となってしまう面は否めないが、さらなる事業執行の効率化が望まれる。 | | |

平成18年度杉並区財団等運営評価 - 事業分析 (事業概要)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|-------|---|--------|----------------|--------------|-----|--------------|-----|-----------|-----------|-----|-----------|-----|-----------|-----|----------|------|-----------|-------------------|--|--|--|
| 団体名称 | 財団法人 杉並区障害者雇用支援事業団 | 代表者 | 小林義明 | 所管部課係名 | 保健福祉部障害者施策課管理係 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基本財産 | 500,000千円 | 設立年月日 | 平成10年10月1日 | 電話 | 03-5382-2081 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 顧客 | 就労を希望する障害者とその関係者 一般企業等に就労している障害者とその関係者 区内各作業所と作業所職員 障害のある人を雇用、または雇用しようとしている事業者 養護学校等 | 事業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 就労機会の開拓及び提供 職業準備訓練の実施 職業リハビリテーションに係る情報の提供、相談その他の援助 事業主に対する雇用管理に関する事項についての助言その他の援助 障害者雇用支援者に係る情報の収集・提供 障害者雇用支援者に対する研修の実施 その他事業団の目的達成のために必要な事業 <p>就労を希望する障害者が障害者職業センターで職業評価を受けた後、事業団の職業準備訓練で本人の障害特性や適正を把握し、企業への就職を目指す。</p> <p>障害者の企業就労を促進するため、企業訪問等による職場開拓、ジョブコーチ手法による職場実習支援、就職支援、職場定着支援を実施している。</p> <p>他区の雇用支援機関、ハローワーク、障害者職業センターと共催で「就職準備フェア」を開催し、企業を対象としたセミナーと知的障害者を対象とした実習相談会を実施している。</p> <p>職業リハビリテーションとして、喫茶、軽作業等を実施し、職業能力の付与・向上を図っている。</p> <p>在宅の障害者を含め、就労に関する相談助言を行うとともに、必要に応じ関係機関に引き継いでいる。</p> <p>作業所等の指導員を対象にジョブコーチ養成講座を実施している。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業目的 | 就労が困難な障害者の雇用促進と職業生活の自立を図るため、職業準備訓練から就職・職場定着に至るまで、一貫した就労支援・相談援助を障害者、事業主等に行うとともに、障害者の自立と社会参加をすすめる、ノーマライゼーションの理念の実現に寄与する。 | 区への要望 | <ol style="list-style-type: none"> 区内事業所等に対し、障害者雇用の促進を積極的に働きかけるとともに、区としても就職状況の厳しい知的障害者等を試行的に雇用することなどを検討していただきたい。 区の入札参加資格に、当該事業者の障害者雇用状況による格付基準を設ける等の取り組みを進めていただきたい。 雇用支援対象者の拡大や就職者の累増による定着支援体制の強化に対応するため、引き続き財政面での支援をお願いしたい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 事業規模 | <p>17年度の事業概要</p> <table border="1"> <tr> <td>訓練生数</td> <td>38名</td> </tr> <tr> <td>団体会員数</td> <td>31件</td> </tr> <tr> <td>雇用支援センター利用者数</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>一般企業就職者数(累計)</td> <td>72名</td> </tr> </table> <p>経営規模</p> <table border="1"> <tr> <td>総収入(経常収入)</td> <td>189,872千円</td> </tr> <tr> <td>総支出</td> <td>188,693千円</td> </tr> <tr> <td>総資産</td> <td>538,990千円</td> </tr> <tr> <td>総負債</td> <td>14,305千円</td> </tr> <tr> <td>正味財産</td> <td>524,685千円</td> </tr> </table> | 訓練生数 | 38名 | 団体会員数 | 31件 | 雇用支援センター利用者数 | 10名 | 一般企業就職者数(累計) | 72名 | 総収入(経常収入) | 189,872千円 | 総支出 | 188,693千円 | 総資産 | 538,990千円 | 総負債 | 14,305千円 | 正味財産 | 524,685千円 | 理事13名 監事2名 評議員15名 | | | |
| 訓練生数 | 38名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 団体会員数 | 31件 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 雇用支援センター利用者数 | 10名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 一般企業就職者数(累計) | 72名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総収入(経常収入) | 189,872千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総支出 | 188,693千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総資産 | 538,990千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総負債 | 14,305千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 正味財産 | 524,685千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 組織構成 | 事務局長1名 次長2名(内1名非常勤) 事務職員2名(内1名非常勤) 就労支援担当職員8名 定着支援ほか担当5名(非常勤) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

平成18年度杉並区財団等運営評価 - 事業分析 (事業評価指標)

| 指標名 | 式・具体的内容 | 単位 | 15年度実績 | 16年度実績 | 17年度実績 | 目標 | | |
|------------|---|---|--------|--------|--------|------|--|--|
| | | | | | | 目標値 | 目標年度 | |
| 事業団訓練生数 | 年度中の在籍者数(ただし、15・16年度は雇用支援センターの在籍者のみ) | 人 | 13 | 15 | 38 | 40 | 20 | |
| 企業等実習件数 | 事業団訓練生等が企業等で実習をした件数 | 件 | 13 | 28 | 36 | 50 | 20 | |
| 職場開拓企業訪問数 | 職場開拓のため企業を訪問した件数 | 件 | 27 | 39 | 42 | 70 | 20 | |
| 職場定着等企業訪問数 | 職場定着支援等、指導のため企業を訪問した件数 | 件 | 502 | 663 | 696 | 750 | 20 | |
| 相談件数 | 就職を希望する障害者及び就労中の障害者に対する相談件数 | 件 | 102 | 95 | 110 | 200 | 20 | |
| 就職者数 | 事業団を利用して就職した人数 | 人 | 10 | 19 | 17 | 25 | 21 | |
| 定着率 | $\{(1 - 1年未満で離職した数(累計) / 就職者数(累計))\} * 100$ | % | 86.1 | 89.1 | 90.3 | 95.0 | 21 | |
| | | | | | | | | |
| 活動指標 | | 現状の分析・評価 | | | | | 目標設定の考え方 | |
| 成果指標 | | <p>平成17年度から、雇用支援センター以外の事業団自主部門も就職にむけた訓練の場と位置づけ、訓練生に対する就労支援を強化した。また、昨年度に引き続き、区内作業所等とも連携を図り作業所在籍者の就労支援も行った。その結果、作業所から5名就職した。</p> <p>定着率は、1年以上継続して勤務している障害者を対象にした。他区市の就労支援機関と比較しても高い率となっている。</p> | | | | | <p>平成17年度から事業団の全ての訓練場所が企業就労に向けた訓練部門となったことにより、目標の設定を企業就労を目標にしたものにした。</p> <p>相談件数は、精神障害や発達障害、転職希望の障害者等からの相談が増加することを予測し、大幅な件数増を見込んでいた。</p> <p>就職者数の年間目標数値は、雇用支援センターから5名、それ以外の事業団訓練部門等から20名の計25名としている。</p> | |

平成18年度杉並区財団等運営評価 - 事業分析 (事業の推移)

| 項目 | 算式・説明 | 単位 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 備考 |
|-------|------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--|
| 財務状況 | 総収入(経常収入) | 千円 | 207,031 | 194,761 | 193,876 | 216,472 | 189,872 | 受益者負担について、17年度から雇用支援業務に特化し、個人会員制度がなくなったため。 |
| | 補助金収入 | 千円 | 99,954 | 101,543 | 103,320 | 119,299 | 122,815 | |
| | 事業収入 | 千円 | 90,285 | 74,583 | 71,467 | 90,714 | 60,276 | |
| | 区内からの受託事業費 | 千円 | 14,663 | 13,209 | 13,332 | 12,475 | 16,758 | |
| | 基本財産運用収入額 | 千円 | 3,200 | 5,147 | 5,763 | 5,974 | 5,974 | |
| | 受益者負担 | 千円 | 50 | 103 | 114 | 119 | 0 | |
| | 受益者負担比率 | % | 0.026 | 0.057 | 0.064 | 0.064 | 0.000 | |
| | 総支出(経常支出) | 千円 | 208,100 | 194,112 | 192,606 | 214,380 | 188,693 | |
| | 全事業の事業費 | 千円 | 195,568 | 181,509 | 178,518 | 186,768 | 163,608 | |
| | 区内からの受託事業の事業費 | 千円 | 14,663 | 13,209 | 13,332 | 12,475 | 12,279 | |
| | 管理費 | 千円 | 12,531 | 12,603 | 13,410 | 24,677 | 24,665 | |
| | 総人件費 | 千円 | 90,580 | 90,284 | 90,866 | 104,075 | 112,734 | |
| | 区内からの受託事業に係る人件費 | 千円 | 14,406 | 12,886 | 12,916 | 12,175 | 11,978 | |
| 資産 | 千円 | 546,506 | 548,098 | 551,275 | 547,099 | 538,990 | | |
| 負債 | 千円 | 13,983 | 14,925 | 16,833 | 21,625 | 14,305 | | |
| 正味財産 | 千円 | 532,523 | 533,173 | 534,443 | 525,473 | 524,685 | | |
| 基本財産額 | 千円 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | 500,000 | | |
| 組織 | 総職員数 | 人 | 35 | 35 | 36 | 39 | 39 | |
| | 常勤役員数 | 人 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 非常勤役員数 | 人 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | |
| | 派遣職員数 | 人 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | |
| | 常勤固有職員数 | 人 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | |
| | 非常勤固有職員数 | 人 | 11 | 11 | 12 | 14 | 14 | |
| | サービス利用人数(実人員) | 人 | 285 | 290 | 320 | 338 | 165 | 13~16年度は(就労会員+派遣会員+団体会員在籍者の半数+雇用支援センター訓練生+定着支援者) |
| | 職員一人当たりサービス利用人数 | 人 | 25.9 | 26.4 | 26.7 | 22.5 | 11 | |
| | 支援センター在籍者1人当たりサービス利用人数 | 千円 | 3,188 | 2,395 | 2,447 | 2,213 | 2,983 | |
| | 訓練生1人当たり事業費 | 千円 | 3,465 | 3,918 | 3,810 | 3,713 | 3,520 | |
| サービス | | 円 | | | | | | |

千円単位のものは、千円未満を切り捨て、円単位のものは1円未満を切り捨て。 %については、小数点以下第2位を四捨五入。

平成18年度財団等経営評価 運営評価表(経営分析定量指標)

| 分野 | 指標 | 算定式 | 単位 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 特記事項 | 参考 |
|-------------|----------------|---------------------------------|----|---------|---------|---------|------|---------------|
| 計 画 性 | 1 事業費の対計画比率 | 全事業の事業費(決算額)÷当初予算事業費額×100 | % | 94.8 | 99.2 | 89.0 | | |
| | 2 経常収支 | 経常収入(総収入)－経常支出(総支出) | 千円 | 1,270 | 2,092 | 1,179 | | 通常黒字が望ましい |
| | 3 経常収支比率 | 経常収入÷経常支出×100 | % | 100.7 | 101.0 | 100.6 | | 通常100%以上が望ましい |
| | 4 事業収入合計の伸長率 | 当該年度の事業収入÷前年度の事業収入×100 | % | 95.8 | 126.9 | 66.5 | | 通常増加が望ましい |
| | 5 経常収入の伸長率 | 当該年度の経常収入÷前年度の経常収入×100 | % | 99.6 | 111.7 | 87.7 | | 通常増加が望ましい |
| | 6 事業費比率 | 全事業の事業費÷経常支出×100 | % | 92.7 | 87.1 | 86.7 | | 通常増加が望ましい |
| | 7 管理費比率 | 管理費÷経常支出×100 | % | 7.3 | 12.9 | 13.3 | | 通常減少が望ましい |
| 自 立 性 | 8 補助金収入依存度 | 補助金収入÷総収入合計×100 | % | 53.3 | 55.1 | 64.7 | | 通常減少が望ましい |
| | 9 収益事業比率 | 収益事業の事業費÷全事業の事業費×100 | % | - | - | - | | |
| 健 全 性 | 10 区委託事業依存度 | 区委託事業費÷全事業の事業費×100 (補助金は含まず) | % | 7.5 | 6.7 | 10.2 | | |
| | 11 正味財産構成比率 | 正味財産÷(負債+正味財産)×100 | % | 97.0 | 96.1 | 97.4 | | 通常増加が望ましい |
| | 12 基本財産運用収入率 | 基本財産運用収入額÷基本財産額×100 | % | 1.2 | 1.2 | 1.2 | | 通常増加が望ましい |
| | 13 経常支出人件費比率 | 総人件費÷経常支出×100 | % | 47.2 | 48.5 | 59.7 | | 通常減少が望ましい |
| | 14 常勤役員比率 | 常勤役員数÷総職員数(非常勤役員を除く)×100 | % | 4.6 | 4.6 | 4.0 | | 通常減少が望ましい |
| 効 率 性 | 15 常勤役員人件費比率 | 常勤役員人件費÷総人件費×100 | % | 7.4 | 6.4 | 15.2 | | 通常減少が望ましい |
| | 16 管理費比率の削減率 | (1-当該年度の管理費比率÷前年度の管理費比率)×100 | % | 12.7 | 76.1 | 3.2 | | 通常増加が望ましい |
| | 17 資産回転率(回) | 総収入÷資産 | 回 | 0.4 | 0.4 | 0.4 | | 通常1回以上が望ましい |
| 経 済 性 | 18 職員1人あたり事業収入 | 事業収入÷総職員数(非常勤役員を除く) | 千円 | 3,248 | 3,629 | 2,411 | | 通常増加が望ましい |
| | 19 資産剰余率 | 剰余金(当期正味財産増加額)÷資産×100 | % | 0.2 | 1.6 | 0.2 | | 通常増加が望ましい |
| | 20 損益分岐点 | 固定費÷{1-(変動費÷総収入)} | 千円 | 191,979 | 213,459 | 188,368 | | |
| | 21 損益分岐点比率 | 損益分岐点÷総収入×100 | % | 99.0 | 98.6 | 99.2 | | 通常90%未満が望ましい |

金額は、千円未満を切り捨て。%及び回については、小数点以下第2位を四捨五入。

平成18年度財団等経営評価 運営評価表(経営分析定性指標)

：十分できている、：おおむねできている、×：できていない

| 分野 | 指標 | 評価 | 分野の点数(100点) |
|-------|---|----|-------------|
| 計画性 | 1 経営戦略及び経営目標達成の進捗状況管理の手段として、中長期経営計画が策定されているか | | 88 |
| | 2 年次事業計画書・収支予算書が、中長期経営計画に基づく短期的行動指針として作成されているか | | |
| | 3 中長期経営計画や年次事業計画の策定に当たって区の行政サービスに関する計画との整合性が確保されているか | | |
| | 4 年次計画と年次実績との乖離原因の分析と結果が次年度以降の計画へ反映されているか | | |
| 評価の根拠 | 16年度に策定した「障害者雇用支援杉並アクションプラン」に基づき、企業就労支援の強化を図っているが、さらに17年度は、区の保健福祉計画改定や障害者自立支援法制定等の動きと整合した「事業改革推進プラン」を策定し、区内障害者の企業就労が一層促進できるように取り組んでいる。 | | |
| 目的適合性 | 5 事業内容と団体の設立目的が合致しているか | | 88 |
| | 6 事業目標(定量的数値)の設定方法が妥当か | | |
| | 7 団体が提供するサービス等に対する顧客の満足度を調査・分析しているか | | |
| | 8 新規事業の企画段階または新しい商品やサービスの提供を開始する際に顧客のニーズを調査・分析しているか | | |
| 評価の根拠 | 就労が困難な障害者の雇用の促進に向けて各事業とも実績を上げており、事業内容は設立目的と合致している。本人のカウンセリングや企業訪問により、本人の適性・能力・希望に即した就労支援・職場定着支援を行っている。また、雇用する側の企業に対するアンケート調査を実施し、ニーズや課題の把握に努めている。 | | |
| 健全性 | 9 管理者及び職員の能力育成体制が整備されているか | | 80 |
| | 10 意思決定及び業務の妥当性を確保するための管理体制ができているか | | |
| | 11 財産管理や会計処理が適正に行われているか。また、監査の体制が整備されているか | | |
| | 12 区からの財政的支援(補助金)に依存しない経営努力を行っているか | | |
| | 13 個人情報管理と情報公開は適正に行われているか | | |
| 評価の根拠 | 管理者・職員の能力育成については、OJTなど内部研修や専門機関が実施する外部研修への派遣によりスキルアップを行っている。会計処理では、公認会計士による検査体制をとっている。なお、事業団の性格上、収益事業の展開が難しく、区補助金以外の自主財源確保が課題である。 | | |

平成18年度財団等経営評価 運営評価表(経営分析定性指標)

| 分野 | 指標 | 評価 | 分野の点数(100点) |
|-------------|---|---|-------------|
| 効 率 性 | 14 予算節約度の原因分析結果が業績改善へ結びつけられているか | | 70 |
| | 15 人件費を削減するための工夫が凝らされているか | | |
| | 16 資産運用効率を改善するための工夫が凝らされているか | | |
| | 17 事務処理の効率を改善するための工夫が凝らされているか | | |
| | 18 業務の効率化、コストダウンのためにアウトソーシング(外部委託)を活用しているか | | |
| | 評価の根拠 | 事業団の業務は、職業訓練指導、企業開拓などいづれもマンツーマンの対応が必要なため、事業活動の強化に伴う人的増の要素があり、人件費の削減が困難な特性があるが、非常勤職員を雇用する等工夫している。基本財産は安全かつ金利面で有利な条件の債券を購入し運用している。事務処理はパソコンによる効率化を行っているほか、ホームページ作成などの業務を委託している。 | |
| 経 済 性 | 19 同種の事業形態、同規模の他団体を業績向上の比較対象として設定し、業績改善の努力を行っているか | | 80 |
| | 20 サービスコスト低減のための努力(施策)を行っているか | | |
| | 21 物品の調達コスト低減のための努力(施策)を行っているか | | |
| | 22 交渉や入札等により外部委託コスト(業務委託費)低減のための努力(施策)を行っているか | | |
| | 23 事業収入を増加させるための努力(施策)を行っているか | | |
| | 評価の根拠 | 雇用支援センターの指定を受けた団体は都内では当事業団のみだが、他区市の障害者就労支援団体・機関の企業開拓や就労支援の取り組みを調査し参考にしている。訓練の場である喫茶の運営にあたっては、食材仕入れコストの削減、メニューの工夫等による集客数の向上、店舗経営の改善に努めている。 | |

平成18年度杉並区財団等経営評価による改善計画

| 団体名称 | 財団法人 杉並区障害者雇用支援事業団 | 代表者 | 理事長 小林 義明 | 電話 | 5382-2081 |
|--|---|-----|--|----|-----------|
| <p>主 近 五 年 間 の 取 組 み</p> | <p>雇用支援の結果、この5年間で合計59名が就職することができた。(13～17年度) 「障害者雇用支援杉並アクションプラン」を策定し、企業等への一般就労を目指す「雇用支援業務」と福祉的就労の性格の「中間的就労の場の提供」の二本立ての事業を、「雇用支援業務」に重点化することとした。(16年度) 訓練作業種目について、訓練としての効果性、コストパフォーマンス等の観点から見直しを行い、自転車リサイクル事業、印刷事業を廃止した。(16年度) 定着支援アドバイザー制度の導入のほか、職場実習奨励事業(区役所での体験実習)、ジョブコーチ養成講座、雇用支援ネットワーク会議の創設等、障害者就労支援施策を充実強化した。(15～16年度) 区の保健福祉計画改定、障害者自立支援法制定等の動きを踏まえ、「事業改革推進プラン」を策定し、障害者の多様な就労ニーズに対応できる事業展開、職員が雇用支援に集中できる体制づくりを目指すこととした。(17年度) 区からの受託による和田障害者交流館の管理運営を終了した。(17年度)</p> | | | | |
| <p>前 年 度 の 取 組 み 成 果 ・ 反 省</p> | <p>企業への就職者は、雇用支援センターから5名、雇用支援センター以外の事業部門から7名、作業所通所者の実習者から5名の計17名となった。 「事業改革推進プラン(18～20年度)」を策定し、職業準備訓練の場と内容の見直し、登録制導入による雇用支援対象者の拡大、企業開拓の強化等を図ることとした。 商工会議所会員企業を対象に、アンケート調査・障害者雇用企業見学会を実施し、区内事業者の障害者就労に関する理解の促進、協力を働きかけた。 新たな訓練生を確保するため、作業所・福祉事務所等へ協力を要請した。</p> | | | | |
| <p>今 年 度 の 取 組 み ・ 目 標</p> | <p>17年度に策定した「事業改革推進プラン」に基づき、長期の職業準備訓練を希望しないもしくは必要としない障害者を対象に登録制度を創設し、求職中の在宅障害者や転職希望の障害者を含め、雇用支援対象者を拡大して障害者就労を強化する。また、雇用支援センター以外の訓練部門の通所期間を原則3年から1年に短縮するとともに1～3ヶ月の短期訓練コースを創設する。さらに訓練の場である喫茶「てんとう虫」について、障害者雇用と実習場所の提供を条件に民間事業者を経営を移譲することにより、職員が本来の雇用支援業務に集中できる体制を作っていく。 雇用開拓担当の非常勤職員を配置し、ハローワーク等と連携して就職先企業・実習受入れ先企業の開拓を推進する。 定着支援アドバイザーを増員し、就職後の障害者の職場不適應の防止・職場定着支援を強化する。 精神障害や高次脳機能障害・発達障害のある人の一般就労支援を関係機関と連携して推進していく。 区と協働して特例子会社の区内誘致に取り組む。</p> | | | | |
| <p>総 合 方 針</p> | <p>杉並区における障害者の企業就労を一層促進するため、事業活動の見直し・改革に継続して取り組む</p> | | <p>添 付 資 料 リ ス ト</p> | | |

平成18年度杉並区財団等経営評価 問題点検討表(二次評価)

| | | | | |
|--------------------|-------------|---|-----|-----------------------|
| 主管部 係名 | 保健福祉部障害者施策課 | 電話番号 | 団体名 | 財団法人 杉並区障害者雇用支援事業団 |
| | | 内線1142 | | |
| 経営分析、課題と問題点 | | | | |
| 定性評価 | 計画性 | 平成16年に策定した「障害者雇用支援杉並区アクションプラン」に基づき、企業就労支援の強化を図っており、着実に実績を上げている。平成17年度は、区の保健福祉計画の改定や障害者自立支援法の改定等との整合性をはかり、新たに「事業改革推進プラン」を策定するなど、区内障害者の雇用支援の強化に向けて計画的な取り組みがなされている。 | | |
| | 目的適合性 | 障害者の雇用促進に向けてすべて事業が推進され障害者の地域での自立した生活実績を上げている。サービスの提供に関して、本人のカウンセリングや企業に対するアンケート調査を実施するなど、ニーズや課題の把握に努め、事業目的の達成に向けた努力がみられる。 | | |
| | 健全性 | 会計処理、財産管理等公益法人として適切な経営である。管理者も含め、職員の能力育成について内部研修や専門機関が実施するが外部研修へ参加するなどスキルアップに努めており、健全な事業運営に努力がみられる。経営面では、事業団の性質上収益事業の拡大は難しいが、区との協働体制を維持しつつも、新たな就労支援事業の創設など事業内容に独自性、自立性を発揮してほしい。 | | |
| | 効率性 | 雇用支援事業は、ジョブコーチ、定着支援、企業開拓等、人的活動に依存するところが大きく人件費の削減は難しい状況にある。業務内容によっては、非常勤職員を雇用する等工夫が見られる。事務処理に関しては、パソコンの活用やホームページの作成委託等業務の効率化を図っており評価できる。 | | |
| | 経済性 | 教務の改善にあたって、企業開拓や就労支援の取り組みについて他区市の状況を調査し、参考としている。訓練の場としての喫茶の運営にあたっては、仕入れコストの削減、集客数の向上等改善に努めているようだが、実質的な事業収入の増には必ずしも結びついていないため、引き続きの経営努力が望まれる。 | | |
| 定量評価 | 計画性 | 訓練としての効果性、コストパフォーマンスの観点から自転車リサイクル事業、印刷事業を廃止したことにより、事業収入は減となったが、事業団の事業目的に合致した方針見える。 | | |
| | 自立性 | 自主事業収益の減に伴い、補助金収入の依存度は増となっている。 | | |
| | 健全性 | 事業団の事業特性から、人的支援が益々重要となることから人件費比率が高い状況はやむを得ない。 | | |
| | 効率性 | 事業収入そのものが軽作業に対する配分金や材料費にあてられるため、職員1名あたりの事業収入は財団経営の効率性を示すものではない。 | | |
| | 経済性 | 事業収入そのものが軽作業に対する配分金や材料費にあてられるため、法人としての経済性を判断することは難しい。 | | |
| 特記事項 | | | | |

事業分析、課題と問題点

| | | |
|---|--|--|
| 現 状 ・ 評 価 | 活 動 指 標 | 事業団の機能が、企業就労を目指す障害者の雇用支援に1本化したことから、すべての活動指標が増に転じた。今後も企業就職者の増に伴い相談件数の増が見込まれる。 |
| | 成 果 指 標 | 就職者数は、若干昨年を下回ったが着実に就職者は増えている。また、定着率が高く、定着支援アドバイザーによる支援の効果が現れている。 |
| 目 の 考 え 方 | 活 動 指 標 | 目標の設定は企業就労を目指したものになっており、事業目標の達成状況がわかる指標となっている。 |
| | 成 果 指 標 | 企業就労を目指す障害者の雇用支援強化に伴い就職者及び、定着率の指標となっている。 |
| 事 業 の 推 移 | 財 務 状 況 | 一部事業を縮小したことから、事業収入の減がみられるが、事業団の事業目的にあったもみでよい。人件費の増は雇用支援事業を強化するために不可欠な人的な強化によるものであり、妥当である。 |
| | 組 織 | 今後の就職者の増や、精神障害者や高次脳機能障害の方への支援の方向性から、ジョブコーチや定着支援アドバイザーの増員が見込まれる。 |
| | サ ー ビ ス | 17年度からの事業の見直しを受け、指標の捕らえ方に変化がある。 |
| | コ ス ト | 支援センター在籍者数の減により1人当たりのコストは増になっている。 一人あたりのコストには、訓練生への配分金が含まれており、サービスに対する単位あたりのコストとはなりにくい。 |
| 所 管 部 課 経 営 評 価 総 合 コ メ ン ト (分析、課題と問題点) | <p>・平成16年に策定された、「障害者雇用支援杉並アクションプラン」に基づき、企業への就職を目指した雇用支援事業の強化により、着実に就職者が増えている。また、就職以降の定着支援指導の強化により、高い定着率という成果を得ており評価したい。</p> <p>・平成17年には、区の保健福祉計画の改定や障害者自立支援法の動向を踏まえ、「事業改革推進プラン」を策定し、雇用支援対象者の拡大等、障害者の多様な就労ニーズに対応できる事業展開に向けた体制づくりに取り組む方針を示している。杉並区では、障害者自立支援法の施行に伴い、障害者の就労支援を重点施策と位置づけ、障害者の地域で自立した生活が実現するよう「もっと働ける地域社会づくり」に向けて雇用支援の強化に取り組んでいる。今後は区との協働体制を一層強化するとともに、事業団の独自性を発揮し、杉並区の障害者雇用支援の中心としての事業展開を期待したい。</p> <p>・杉並区においては、雇用支援ネットワーク会議を中心に障害者の雇用支援に関する機関、団体等の協力体制が広がりを見せている。今後は精神障害者や高次脳機能障害や発達障害の方などへの支援も視野に入れ、効果的な事業展開に向けて更なるネットワークの強化が必要である。</p> | |